

社会科学学習指導案

指導者 迫 眞 也

日 時 平成26年11月22日（土） 第2校時（11：05～11：55）
年 組 中学校第3学年2組 計40名（男子18名，女子22名）
場 所 中学校第3学年2組教室
単 元 政府の経済活動と租税 ～宗教法人に課税するべきだろうか～
単元について （略）

指導目標 （略）

指導計画 （略）

本時の目標

宗教法人に対する課税の是非を考える活動を通し，国家が租税を課すべきとする自分なりの判断基準をつくり，ふり返ることができる。

「学びのつながり」の視点 （略）

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 導入（10分） □前時の授業を復習する。 - これから支出が増えるのは，どのようなお金？ →社会保障関係費，国債費 - この状態が続くと，どうなるか →借金が増えすぎる，返せなくなる - 諸外国に比べて，どうだったか →極端に借金額が多く，対GDP比200%以上 - どうする必要があるのか →歳出を減らす，増税する □法人とは何か，考える。 - 以下の団体の共通点は何だろう 広島大学 JA広島 マツダ 厳島神社 JF広島県漁連 サコ・エンタープライズ →すべて何らかの法人 - 法人にかかる税金は何だった？→法人税 - 実は，この中に税金を払っていない法人と，ほとんど払っていない法人がある →国立大学法人（国費で運営） →厳島神社（宗教活動については無税） - 大学はともかく，宗教法人って，他の法人と何	○前時のポイントを簡単に確認する。 ○諸外国に比べて深刻であることを印象づける。 ○日本の財政赤字が巨額であることをおさえる。 ○財政赤字を解消する方法は増税が有力と考えられていることをおさえる ○わかりにくいようであれば，（株）や（財）などの記号をつけて気づかせる。 ○法人の説明は，前時の復習にとどめる。 ○宗教法人についてはあまり細かく説明することは避け，なぜ払っていないかについて興味を持たせる。

が違ふんだらう？日本が大変なときに、税金払わなくていいの？そもそも、国はなにを基準に税金をかけているの？	
宗教法人に税金をかけるべきだろうか	
2. 展開 (35分) ☐伊勢神宮を例に、宗教法人の収入源を考える ・お賽銭 ・お守り ・初穂料 ・寄附 ☐宗教法人が課税されない理由とその反論を読み取る。 ・なぜ宗教法人には、税金がかからないのか、さらにそれに対する反論を、資料から読み取ろう 公益性がある 浄財である 文化財を管理... サービス業だ 財政が厳しいのにひいきだ... ☐外国の課税についての資料を読み取り、交流する。 ・外国の制度と日本の制度を比較して、どんなところに共通点と相違点があるだろう (共通点) (相違点) 宗教活動は非課税 国教を定める国がある 営利活動は課税 税がある国とない国がある ☐自分の意見をまとめる。 ☐意見を交流する。 3. まとめ (5分) ☐最終的な自分の判断基準をふり返る。	○実際に自分たちがどんなところでお金を使ったかを中心に考えさせる。 ○収益事業には軽減されるが税金はかかる。 ○新聞記事から、読み取らせる。 ○公益性を含め、さまざまな価値観について賛否あることをおさえる。 ○資料を示し、諸外国の状況を確認させる。 ○最初に、各国の宗教人口比率についての違いを確認してから、読み取らせる ○キリスト教圏、イスラム教圏、仏教圏など、さまざまな国の制度と比較させる。 ○先に示した資料をもとに、ツールミン図を使って考えさせる。 ◆自分の意見を構築するための情報を、複数の資料から読み取ることができる。【技能】 ○書画カメラを利用して、発表させる。 ◆自らの判断基準を明らかにすることができる。【思考・判断・表現】

参考文献

- 文化庁. 『海外の宗教事情に関する調査報告書』. 2008.
- 石村耕治. 『宗教法人法制と税制のあり方』. 法律文化社. 2006.
- 小原友行. 『論争問題を取り上げた国際理解学習の開発』. 明治図書. 2006.
- 文部科学省. 『中学校学習指導要領解説 社会編』. 2008.
- 実藤秀志. 『宗教法人ハンドブック 設立・会計・税務のすべて 8訂版』. 税務経理協会. 2008.
- 田中治. 「宗教法人課税の基本的争点」. 『宗教法人法「改正」と税制～宗教法人の自主性を確立するために～』. 第一法規出版. 1996.